

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	287400619		
法人名	グループホーム 花みずき		
事業所名	姫路市豊富町豊富 9 1 5 - 2		
所在地	姫路市豊富町豊富 9 1 5 - 2 (電話) 072-264-8855		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通 2 - 1 - 1 8		
訪問調査日	平成19年12月6日	評価確定日	平成20年3月6日

【情報提供票より】(平成19年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年11月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤22人, 非常勤 2人, 常勤換算23人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1~2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	39,000 円
敷金	有() 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	27 名	男性 3 名	女性 24 名
要介護 1	9 名	要介護 2	10 名
要介護 3	3 名	要介護 4	3 名
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 83.29 歳	最低 67 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	だいたう循環器クリニック、姫路北病院、中山歯科
---------	-------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

姫路市の郊外で徐々に発展している地域のなかにあり、2階建て3ユニットの明るい建物で敷地も広くゆったりしている。1階の1部にデイサービスが併設されている。
利用者の方の散歩に適した静かな道もあり、自然の季節感も味わえる。ホームとしては、地域との交流も少しずつだが進みつつあり、利用者の高齢化、重度化にも前向きな管理者は、職員そして家族、医師との連携を取りながら支援している。今後は、姫路市へも積極的に連絡を行い、市との連携を進めることが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) できるところから改善しようという姿勢がうかがえた。記録に関することはマーカで印を付けたり、閲覧のチェック欄を作製している。職員の研修は随時伝え、同業者との連携も取り、お互いの職場での実習研修を実施している。介護計画の作成は家族の意見を伺い、計画を実施する前に家族の承諾を得ていくことが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 管理者より評価について説明があり、各ユニット毎に話し合い、記入は順番に書くことにしている。今回の評価も職員は現状を見直す良い機会と捉えている。評価の結果により再度会議が行われ、次年度の目標として検討される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 運営推進会議において、自治会の協力を得て自治会の会員となり、自治会、老人会の行事に参加、交流も進め始めている。家族の意見を聞き、運営に取り組む姿勢が伺えるが、会議の出席者を行政の参加を始め、民生委員、地域包括センター、協力医師、消防署、警察、学校、地域の消防団など、関係する所への呼びかけていくことが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) ホーム内の苦情受付の体制を作り、苦情があれば対応している。家族へのお便りも個人宛のものを月1回、ホーム便りとして季刊誌も作成し届けている。急な体調の変化などは電話で連絡をとっている。良く訪問される家族とそうでない家族では伝える情報に差が有り改善の余地がある。各家族全員の意見を頂けるように、家族の会の開催について、工夫をお願いしたい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 近隣の方々、自治会の方などの協力で、地域との交流が進み、カーブミラーの取り付けの意見を頂いたり、秋祭りの休憩所にホームを利用する等、又、小、中学校の生徒が訪問し、手紙を頂くことも有り地域との連携が深くなってきた。これからも更なる連携進めることが期待される。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として5項目を作り、特に第5項目に地域との関わりを明記している。職員、管理者、家族等が見えるユニットの入口とホールに掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員、管理者等の日々の申し送り、ミーティング、内部研修、勉強会、全体会議と機会あるごとに理念に基づいた取り組み方を検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、秋祭り、新年会等の行事に参加している。日常的には散歩のときの挨拶から、花や野菜等を頂くこともある。小、中学校の福祉教育にも積極的に協力し、運動会に招待され参加している。ホームにおいて利用者作品の展示会を行い、近隣より参加者を得た。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を行うことは管理者より全職員に説明され、自己評価を各ユニットの職員が順番に担当し記入している。職員にとってはこの評価をきっかけに基本を見直し、質の向上に繋がっている。 また、第三者評価の結果を会議で報告する予定で、改善に取り組む体制がある。		

5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は年に4回行われ、毎回ではないが自治会や老人会、婦人会からの参加もある。会議の後にホーム全体会議が開かれている。意見交換をし、できることから対応している。</p>		<p>運営推進会議のメンバーに市の職員、地域包括センター、民生委員、消防署、学校ボランティア等関係機関に参加を依頼してはどうか。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現在、運営推進会議への参加もなく、市との連携が密には行われていない。</p>		<p>姫路市の担当課と地域包括センターへ、運営推進会議の参加を呼びかけ、運営推進会議の記録を送付したり、グループホーム便りを持っていくなど、積極的に連携の強化に向けて働きかけることが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族への報告は利用者の体調や行事の参加した様子等を月1回お便りで伝え、金銭面はホームに来られた家族にはサインをお願いし、職員の異動もお便りで知らせている。ホーム便りとして季刊誌をとどけている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見や苦情、相談など職員は何時でも誰でもが受け付け、管理者に伝える体制をとっている。また、ミーティングを聞き検討し対応に当たっている。家族会は年1回、毎年4月に開催されるが、まだホーム側からの報告中心となっている。</p>		<p>苦情や相談事を個別には意見を発しにくいこともあるので、家族の会の開催を多くするなどの工夫が期待される。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット間で職員の異動をするが、最小限にとどめて、1ヵ月ほどかけて行っている。また、顔を覚えてレクリエーションの時にコミュニケーションを取り、顔馴染みになるように努めている。</p>		

5. 人材の育成と支援				
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人には認知症に関する資料を渡しリーダーに付き業務を覚え、1ヵ月間の研修期間を取っている。職員の能力に応じ、より質の高い研修に参加できるよう申し込みをしている。月1回の勉強会も実施し、外部研修への参加申込も随時行っている。</p>	<p>外部研修の参加希望者が多いので、参加できないものもあるが、職員の意欲は高いのでそれを大切にして、より多くの専門研修に参加できるよう情報収集と参加体制づくりが期待される。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム協会の集会に参加し、研修や交流を行っている。他のグループホームからの実習生を受け入れ、お互いの資質向上に取り組んでいる。</p>	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始時には家族と共に食事をするなど、ゆっくり時間をかけているが、馴染んで頂くまでに至らないこともある。</p>	<p>利用前の段階でホームに見学に来られたときに、時間をかけて待機者と家族も一緒にお昼の食事をしたり、また見学も1回でなく、何回か来ていただけるよう、行事のお誘いをするなど、馴染みの関係を作る工夫が期待される。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家事をしている時、散歩に出かけた時などに、生活の知恵をたくさん教えて頂く。例えばほりが多いとき濡れた新聞紙をちぎり箒で掃くと綺麗にできる等、掃除機は使えないが箒だと掃除ができる利用者と共に部屋の掃除をして喜び支えあっている。</p>	

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1.一人ひとりの把握

14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしのなかで、本人の思いを聞かせて頂ける様にゆっくり話しかけ、会話のなかから、また回りの様子から意向を把握する。家族に相談して家族に聞いて頂くこともある。</p>		
----	----	--	--	--	--

2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画を立てるに当たりチームミーティングを行って、家族の意見も取り入れているユニットもあるが、計画によってはタイムリーなものでないものや、家族には事後承諾になっているものもある。</p>		<p>センター方式を18年度より取り入れて1年経過しているが、利用者全員分の記入ができていない。計画表も家族の意見を聞き、家族に経過や新しい計画を実施前に送付することが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は期間が来なくても随時見直しを行い、計画表に確認の記入をしている。急な体調変化などその都度計画を変更し、対応している。</p>		


3.多機能性を活かした柔軟な支援

17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。</p>		
----	----	--	--	--	--

4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>経営母体である「だいとう循環器クリニック」がかかりつけ医となっている。急な変化がある時は電話で対応してもらえる体制も整えている。また、本人や家族の希望での病院にも受診できるよう連携をとっている。個々に「病院受診リスト」を作成し、病院の受診歴がわかるようにしている。</p>	
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居する時に本人、家族、医師、職員、管理者と共に、終末ケアについて方針を話し合っている。医療が必要なときは医師の指示があり退居になる場合もある。重度化の場合は次の施設が決まるまで、支援を続けている。最後まで支援した記録もある。</p>	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーについて、守秘義務、個人情報の取り扱い、利用者の尊厳等、研修を行っている。具体的な対応としては、利用者にあった言葉かけや入室時の挨拶、混乱しないように情報の共有など、毎日の申し送りの時や、ミーティングで話し合いをしている。</p>	
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>それぞれの利用者のペースを崩さないように支えている。重度化しつつある利用者の動き、考え方など見守りながらも自立支援を心がけている。大まかな生活の時間は決まっているが、入浴、食事、散歩等個々のリズムを支えている。</p>	

(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>買い物、調理を利用者と職員が一緒に行い、季節感のある食べ物、好みをいかした献立にしている。嫌いな献立のときは別のものを用意し、職員と共に食事を取り、楽しい話題を心掛けている。</p>	
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴の時間、回数は利用者の希望にそうようにしており、同性の介助にも気配りして行っている。入浴できない時には足浴をしている。重度の方には職員が2人で介助して入浴する事がある。</p>	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の趣味に合わせて、職員が将棋を覚え共に楽しみを分かち合い、花の水やり、草引き、野菜作り、洗濯物干しや取り入れなど、利用者の得意とすることを支援している。</p>	
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>近所回りへの散歩や買い物、喫茶店へ行く、敷地内での花摘み、草引きは利用者の希望を聞き行っている。一人で出かけられない方には、それとなく一緒に出かけている。</p>	
(4)安心と安全を支える支援				
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>各ユニットのドアに鈴が取り付けられて有り、出入りにはそれとなく目で確認して、声をかけ、ホームの外に出られる時は付き添うこともある。日中全てのドアに鍵をかけないが夜はかけている。</p>	

27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火訓練は消防署の協力を得て、日中と夜間を想定して行っている。災害時の訓練の後の反省と備品のチェックも記録している。</p>		<p>事業所内の職員だけでは、火事や災害等発生ときには、安全に非難誘導が難しいのではないかと。今後は誘導など地域の協力を依頼していくことが望まれる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の時大まかであるが、摂取量の記録を取っている。利用者の健康状態、活動もみながら食事の量に気をつけて、きざみ、とろみ、お粥等も勧めている。必要な方には水分の摂取量も記録している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間はゆったりして、テレビの音量にも配慮し、利用者の作品をみて楽しめるように飾り付けてあり、季節の花も、手作りのカレンダーも利用者の目線になるようにしており、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の使い慣れたものを居室に配置している。例えば家族の写真、手紙、使っていたテーブル、イス、ラジオ、洋服を一杯広げている部屋など。また、携帯電話を部屋に置かれている方など、一人一人の生活が伺え、過ごしやすい配慮がなされていた。</p>		

 は、重点項目。